



岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

令和 2年 4月 1日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ ックリヤマコフンソセイカイ
団体名 造山古墳蘇生会

所在地

連絡先

フリガナ
代表者役職・氏名 会長 荻 廣 好 和

<p>実施分野</p>	<p>(該当の分野を○で囲んでください) ㊦ 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他</p>
<p>事業名</p>	<p>日本遺産認定の造山古墳を全国へ発信</p>
<p>事業実施区域 (小学校区)</p>	<p>加茂学区</p>
<p>① 事業実施内容</p>	<p>①シンポジウムの書籍化・自費出版 配布(国立国会図書館を始め県立図書館、岡山市中央図書館、岡山市公民館全て及び地元小・中・高校、学区町内会、蘇生会設立からの支援者等予定先へ配布) ②ガイドマップ印刷 ③ガイド養成講座・研修会開催(コロナ問題でガイド養成講座は3回予定を2回に) ④校外学習の児童・生徒や一般見学者へのガイド活動 ⑤高松中学校の「地域調べ」・「高松歴史教室」に協力 ⑥加茂小学校の「総合学習」に協力(一連の内容) イ) 5月30日 6年生「校外学習」、10月15日 3年生「地域のお宝発見」等、案内 ロ) 10月5日～27日 高松公民館で上記の写真・俳句、散文の展示 ハ) 10月30日 造山古墳についてインタビュー受けと、振り付けしてビデオ撮り ニ) 11月9日 土曜授業「加茂っ子発表会」で「これからの造山古墳」の意見交換 ホ) 2月19日「造山古墳クリーン作戦」で蘇生会、環境衛生等と清掃・会食交流 ⑦古墳及び周辺の清掃奉仕活動(高松農高1年生、加茂小6年生)</p>
<p>② 解決を目指した課題</p>	<p>①中山間周辺地域で話題が少ない学区に話題を継続的に提供する必要がある事。 ②日本遺産認定地に入った事で、地域が今まで以上に関心を持ち、価値を知り、誇りを持つ事。 ③学区を活気づける為にも「造山古墳」の知名度を市内外は勿論、全国に向け発信し、高める事。 ④日本第4位且つ自由に入れる古墳では第1位の造山古墳を取り上げた書籍が未だかつて無い為、これを作り世に出す必要が有る事。</p>

③ 目的・目標の達成状況

- ① 出版本を発刊し、学区民がそれを目にした事や新聞記事が掲載された事で学区内に継続した話題となった。
- ② 市観光振興課から支給された日本遺産のぼり旗設置やビジターセンター建設、千足古墳整備等、周辺状況の漸進的変化も相まって、地域の関心や価値観、満足度は高まってきた。郷土への誇り醸成に繋がっている。例えば、ビジターセンター完成に関しては、大字の水利土木担当の発案で、地域住民によるセンター周辺の清掃活動が4月26日に特別に組まれた。地域の意識は着実に高まって来た。特に、次代を担う加茂小6年生が総合学習で地元の「造山古墳」について調べ、学習に取り組み、学習発表会でその成果を発表、自分たちがこれからどの様に「造山古墳」に関わって行けば良いか等、シンポジウム形式で蘇生会との話し合いにも取り組んでくれた。その一連の学習が第44回山陽新聞桃太郎賞受賞に繋がった。
- ③ 造山古墳の知名度は書店での出版本を通じて全国的に高まってきた。ネット通販大手のアマゾン、楽天ブックス、TSUTAYAオンラインショッピング、HMV&BOOKS online、六一書房等特に、アマゾンでは価格にプレミアが付いている状況である。著名考古学者からの評価も高い。(纏向学研究センター所長 寺澤 薫氏、前近つ飛鳥博物館館長 白石太一郎氏等)本の在庫が無い為、増刷するかどうかの判断に苦慮している。
- ④ 知名度アップの象徴的事項として、
 - イ) 西都原古墳群で有名な宮崎県西都市からガイド集団が視察に来、当方ガイドが案内した。評価が高く、再度3月に来訪予定であったがコロナの件で秋に順延になった。
 - ロ) 備前県民局地域づくり課による「観光有識者の現地視察」の一行が訪れた。
 - ハ) 東京大学国際ミュオグラフィ連携研究機構/岡山地区連携準備会覚書調印に林原美術館と共に造山古墳蘇生会にも声が掛かり加わった。
 - ニ) 岡山シティミュージアム、テレビせとうち等から造山古墳の企画でアプローチが有った。
 - ホ) 山陽新聞社の新人教育に「造山古墳」の視察が企画され、蘇生会が協力する事になった。

④ 企画等の工夫と情報公開

- ① 古代吉備の中心である備中の2大巨墳が訓読みでは同じ「ツクリヤマコフン」でありながら、その類似性と差異に焦点を当てたものが無かった為、シンポジウム自費出版とした。
- ② 平成30年、日本遺産認定とそれを記念するシンポジウム開催、31年(令和元年)、造山古墳蘇生会発足10周年を記念するシンポジウム出版、令和2年、ビジターセンター竣工を記念し「第4回造山古墳まつり」と、3ヶ年の記念行事の集大成の一環とする位置づけ。
- ③ 蘇生会総会で計画を先行発表(アドバルーン打上げ)、連合町内会役員会、安全・安心ネットワーク等の各種会議で進捗状況など説明(既定の事実化)している。
- ④ ガイド養成講座は、公民館報「まつかぜ」、専用チラシ回覧で告知。
- ⑤ その他、場合によりポスター配布や電子町内会HPへ貼り付けている。

積極的な広報・告知を心掛けている。また、タイムリーな新聞記事掲載等も相乗効果となっている。

<p>⑤ 次年度計画</p>	<p>①ガイド人員の増強促進—養成講座の開催継続 ②出版本の増刷—資金面の裏付け ③ビジターセンター管理・運営の定着—報連相・ミーティング ④東京大学国際ミュオグラフィ連携研究機構／岡山地区連携準備会への活動協力</p>
<p>⑥ 事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善</p>	<p>1.理念を掲げ、会設立から11年、日本遺産認定からビジターセンター竣工まで直近3年間、それぞれの時期に節を付けながら地域づくりの一環として実行し、発信して来たが、ほぼ最終章に近づいている。それなりに地域づくりは進める事が出来たと判断している。 2.長年の夢であった日本第4位のランクに相応しいビジターセンターが出来てしまえば、次は運営・管理に及ぶ。今後、新たな課題が表出するものと予想される。 3.持続可能な地域づくりを担う人づくりに繋がったかどうかは未だ確信が持てていない。 1～2年はビジターセンターの鍵番として運営面では5、6人で分担して行うが、地域を担う人づくりに関しては、その様な役割に対する責任感や資質の有無を精査の予定。この5.6人が中心になって行く事を念頭に置いている。 4.本事業における自己評価は、様々なところから協働や協力が得られ、予想を超える順調な推移でとても良かったと思う。 5.本事業に並行し、次年度のビジターセンター竣工記念「第4回造山古墳まつり」の出演・出店交渉や企画検討、協賛金集め、ポスター配布、ビジターセンター管理案件、新たなミュオグラフィ案件等、次から次へと案件に向かい、大変忙しかった。</p> <p>【審査会意見】 ○取組みを書籍化して後世に記録を残すことは大変意義のある取組みだと思います。 ○造山古墳の環境整備や保存を行い、全国に魅力を発信していただきたいです。 ○その他、審査会で受けた意見やコメント集（既送付）も参考にして事業を推進してください。</p> <p>【審査会意見（共通）】 ○記載内容について 前年度とあまり変わらないものが見受けられる。前回の反省、今回はこのように変えたいという内容や思いを書いてください。 ○収支予算書について 支出の中で割合の大きいものは特に、内訳をわかりやすく記入してください。 ○添付資料について 事業内容がわかりやすいように、ちらしやパンフレット類を精選して添付してほしい。</p> <p>1.出版本は好評を得、本が欠品状態になり、欲しい人に行き渡らない状況となった。 2.本を出版した事で造山古墳がより知れ渡り、付随して、蘇生会の名を高める事になった。それに伴い各方面からオファーが有り、協働の声が掛かるようになって来た。（東大ミュオグラフィに関する案件等） 3.審査会意見（共通）事項において 加茂小学校の「総合学習」の質の濃さ・割いた時間等 は、去年のそれとは名称は同じでも内容は大きく変わっており、関わった我々も満足感一杯である。皆が知る造山古墳のある加茂に「ふるさと愛」を育んでくれている状況は、昨年からまた一歩前進している協働の成果と思っている。 4.収支予算書、添付資料の指摘については、よく留意します。</p> <p>助言等の内容について、事業へ反映できましたか。</p> <p>① できた ② おおむねできた ③ 一部できなかった ④ まったくできなかった ⑤ 改善意見がなかった</p>

⑦事業実施にあたっての協働の状況

協働した団体・企業・大学等	協働した内容
①高松環境衛生協議会	造山古墳清掃活動
②岡山市立加茂小学校・同 PTA	〃 と地域学習
③岡山市立高松中学校	地域学習と「高松歴史教室」
④岡山県立高松農業高校	造山古墳周辺道路の清掃活動と地域学習
⑤岡山大学	ガイド養成講座講師
⑥岡山商科大学	〃
⑦岡山市教育委員会	出版本企画協力
⑧岡山市立高松公民館	ガイド養成講座チラシ配布・申込み受付・古墳まつりポスター全公民館配布
⑨株式会社 吉備人	シンポジウム出版・書籍配布
⑩山陽新聞	出版本取材・ビジターセンター取材
⑫ 〃	加茂小取材「総合学習」
⑬岡山シティミュージアム	造山古墳の映像撮影にガイド協力

⑧事業実施経過

年 月 日	内 容
平成 31 年 4 月 6 日	ガイド懇談会(シーズン前)
4 月 23 日	吉備中央下竹小 5.6 年生6名案内(今シーズン開始)
4 月 24 日	高木恭二氏(熊本、過去に鴨屋塾講師依頼)にハイヤ踊り打診・相談
令和元年 5 月 10 日	高松農高 80 名清掃活動を兼ね古墳見学、案内対応
5 月 11 日	古墳まつりプロジェクト会議(高松公民館)
5 月 18 日	造山古墳蘇生会総会・造山古墳まつり企画会議
5 月 24 日	熊本県立牛深高校長、天草市長へ古墳まつり協力依頼
5 月 26 日	古墳見学通路草刈り
6 月 4 日	加茂小、高松中、高松農高へ古墳まつり出演協力要請
6 月 29～30 日	出版本第 1 回校正、7 月 28～31 日第 2 回校正
8 月 10 日	ガイド研修会、古墳まつり企画・出版本配布協議(高松公民館)
9 月 15 日	古墳見学通路草刈り
9 月 18 日	出版本完成、受渡し・配布開始
10 月 4 日	山陽新聞社より出版本の取材受け
11 月 3 日	ガイド視察研修ツアー(浦間茶臼山古墳・備前市他)
11 月 12 日	高松中 1 年生校外学習「地域調べ」30 名案内
11 月 26～27 日	備前県民局地域づくり課による「観光有識者の現地視察」対応
12 月 1 日	岡山市観光ガイド養成講座、蘇生会として参加協力
12 月 12 日	ビジターセンターの使用・管理について観光課と協議
12 月 25 日	岡山市、教育委員会、おかやま観光コンベンション協会へ後援申請
12 月 26 日	TSUKURIYAMAスター(加茂小児童)うらじゃ練習開始
12 月 27 日	古墳まつりポスター企画検討
12 月 28 日	素粒子ミュオンで古墳透視について東大、関大、林原と協議
令和 2 年 1 月 26 日	ビジターセンター管理・運営協議
2 月 1 日	第 1 回ガイド養成講座(講師:岡山大学教授 清家 章氏)
2 月 7 日	東京大国際ミュオグラフィ連携研究機構/岡山地区連携覚書調印
2 月 20 日	「造山古墳クリーン作戦」加茂小 6 年生、保護者、環境衛生委員等
2 月 29 日	第 2 回ガイド養成講座(講師:岡山商大特任教授 福本 明氏)

⑩ 収 支 決 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内 容
岡山市補助金	500,000	500,000	(100円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	454,000	330,461	
参加者負担金	135,500	135,400	学区1戸当り会費
協賛金	100,000	65,000	
寄付、他収入	10,500	159,927	煎餅・チョコレート売上等
計	1,200,000	1,190,788	

◆ 支 出

単位:円

費 目	予 算 額	決 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	40,000	26,891	用紙・封筒・インク・文具等
②食糧費	30,000	38,199	飲料・お茶・ガイド弁当
③印刷製本費	900,000	843,762	書籍製作・写真・コピー・ポスター
④燃料費	0	0	
⑤光熱水費	0	0	
⑥通信運搬費	50,000	46,996	ハガキ・郵送料・電話料金
⑦広告料	0	0	
⑧手数料	0	1,607	振込手数料
⑨使用料・賃借料	10,000	10,735	部屋代
⑩原材料費	0	123,277	煎餅・チョコレート
⑪委託料			
⑫工事請負費			
⑬報償費	140,000	20,000	講師謝礼
⑭保険料	20,000	18,400	ガイド傷害保険
⑮旅費	10,000	1,180	高速料
⑯その他		59,741	慶弔・テント2基・支援者中元
計	1,200,000	1,190,788	

※様式に入力される場合は、収入・支出欄は、エクセルのワークシートになっています。欄の上でダブルクリックして、ワークシートを表示させてから入力してください。